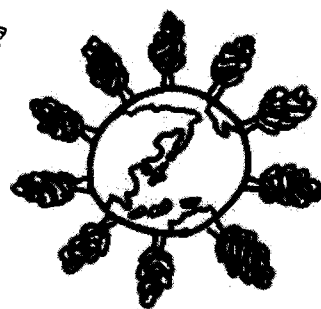


※ まいび! 倫理号です、6年分の今日私は広島で合議年がけ、
今でも鮮明に覚えています、テレビドラマでも見ているようで、毎朝一陸の上で蒸れている。

今週の倫理 1020号 地球は目に見えぬ力で守られている、有難い事です、 2017.3.11 ~ 3.17

幸せ運ぶ 地球

ものの見方を 根本から見直す



え・浅妻健司

三月のテーマ

今こそ地球倫理

普

段、何気なく呼吸している
空気の不思議についてご存
じでしょうか。

空気の成分は、酸素が21%、窒
素が78%、その他1%という構成
比になっています。この構成比は、
何十億年もの間、変化していません
。それが保たれていたからこそ、
様々な生物種が進化し、生き続け
ることができたのです。

もし、空気中の酸素が1%でも
上昇すると、発火(火事)の危険が
倍加します。さらに酸素が25%に
なったとしたら、どこかでマッチ
1本でも擦ると、たちまち火が燃
え広がり、あらゆる植物が燃え尽
きてしまうそうです。

科学者による単純な計算では、
1万年くらいの時間スケールで、
空気中の酸素の量は1%上昇する
はずだといわれていますが、いま
だにそれは起こっていません。

このことを考えると、人間やそ
の他の生物が、自分の体温や呼吸
数を一定に保とうとするホメオス
ターシス(恒常性維持機能)を有し
ているように、地球にもその機能

があるのかもしれない。

地球はまさに奇跡のような力で
満ちていて、目に見えない大きな
力で守られて生活をしているのが
私たちなのでしょう。

*

地球人の、地球人による、地球
人のための倫理。これを地球倫理
と呼ぼう――。

今から32年前、1985年に、
倫理研究所二代目理事長・丸山竹
秋は、「地球倫理の推進」という論
文を発表しました。

地球倫理の大きな特色は、人間
関係を豊かにする倫理にとどまら
ず、地球や様々な自然的存在物(天
地、空気、火、水など)に対する規
律規範も探求し、実践することを
包含している点にあります。

この言葉が提唱された当時は、
「土地は必ず値上がりする」とい
う土地神話が信じられていた時代
です。多くの人が転売目的で土地
の売買に参加するなど、バブル経
済の只中において、周囲からの反
応はほとんどありませんでした。

しかし、丸山竹秋はその後も

研究を続け、広く社会へ、その必
要性を訴えていきました。

先の例にあげた空気をはじめ、
食べ物や飲み物、燃料なども、す
べて地球から与えられる恵みです。
その地球の環境に対して、私たち
はどれほど目を向けているでしょ
う。人類が抱えている危機のうち、
環境問題ほど、子孫に与える影響
が大きいものではありません。

それを乗り越えるための一歩は、
地球や自然に対するものの見方や
生活様式を見直すことから始まる
でしょう。その大本になるのが、
地球倫理です。

そして、緑を大切にすると、水や
電気を節約する、物をリサイクル
するなど、身近な取り組みが地球
倫理実践のスタートです。

その心構えは(自分一人がやつ
ても意味がない)一人の力では大
きな流れを変えることはできな
い)と消極的にならないことです。
一人ひとりの自覚と、着実な実践
こそが地球倫理の要なのです。

*参考資料『いのちといやし』(丸山敏
秋著・新世書房刊)